

「朝バッハ Bach in the Morning」に寄せて

キリスト教を信仰する者でなければ、バッハは理解できないのだろうか？
ドイツ語に精通する者でなければ、バッハは理解できないのだろうか？
ごく一部の選ばれた専門家だけが、バッハに近づくことを許されるのだろうか？

そんな、長年積み重ねた想いを、バッハ・コレギウム・ジャパンの音楽監督、鈴木雅明さんに、ぶつけたことがあった。2009年春のラ・フォル・ジュルネ音楽祭、東京国際フォーラムでのOTTAVAサテライトスタジオからの生放送インタビューでのことだ。

「そんな…僕にだってわかりませんよ！たとえば口短調ミサ曲にしたって、全くわからないことだらけなんです。むしろ、わからないことは増えていく一方です。バッハのことを自分がよく理解できているなんて——僕は全く思わない」
バッハの教会カンタータ全曲録音という偉業を成し遂げた世界的バッハ演奏家のこの言葉は、ある意味、不思議な勇気を与えてくれるように響いたのを覚えている。

これはバッハのみならず、クラシック音楽全般について言えることかもしれないが、「わかる・わからない」よりも、もっと重要なことがある。それは、その音楽が、いかに私たちの魂に喜びを与えてくれるか、ということである。
信仰の有無もドイツ語の教養も音楽学の知識も一切関係なく、バッハの音楽が、あらゆる熱心な聴き手に与えてくれるもの、それは魂の喜びに他ならない。

以前、毎週日曜日の番組で「朝バッハ」と称したコーナーを私が続けていたとき、驚くほど多くのリスナーの方々がそれを愛して聴いてくださった。それはいまも懐かしうれしい思い出である。
たくさんの人々が同時に、ラジオを通して一緒に、同じバッハの音楽に耳を傾ける時間の、どれほどいとおしかったことか。
目に見えない世界中の聴き手の心に、少しずつ秩序と平安が取り戻され、謙虚さが生まれてくるのが感じられてくる、あの連帯の時間が本当に好きだった。
どんなに苦しいときでも、悲しみに包まれているときでも、大きな災難が私たちを襲ったときであっても、やがて音楽は必ず必要とされるときが来る。そんなとき、特にバッハの根底にある「ゆるぎない何か」は、これからもきっと私たちを力強く支えてくれるはずだ。

朝バッハを放送していたとき、私の胸にいつも感じていたことは、1日の中で、1週間のなかで、少しでもいいから、「聖なる時間」を持つことの大切さである。どんな信仰を持つにせよ、持たないにせよ、敬虔な感情に満たされることが、人間の精神生活には、必要なのだ。

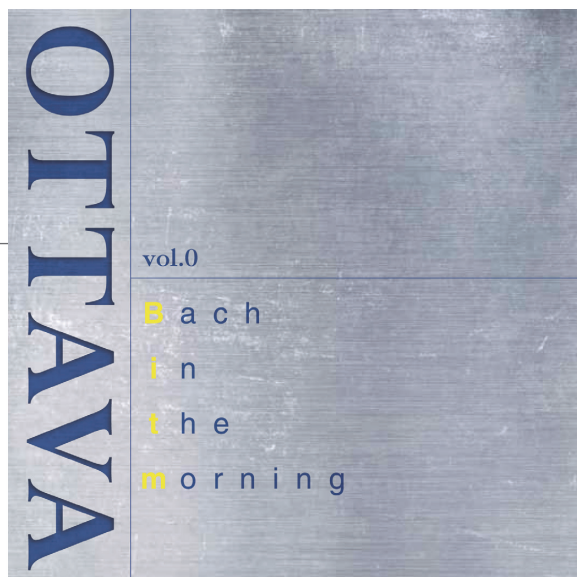
私たちが神を作り出したのだろうか？
それとも、神が私たちを創り給うたのだろうか？
そんな思索にふける時間を、ほんの一瞬だけでもいいから持ちたい。
そのための一助として、このCDをお役立ていただければ幸いである。

最後に、選曲のポイントを少しだけ。
まず心がけたのは、オルガンに始まり、オルガンに終わる構成にしたことである。
ヨハン・セバスティアン・バッハにとってオルガンは音楽的思考の中心となる最大の楽器であった。そしてオルガンは教会と密接な関係にあり、四季折々の礼拝のために欠かせない楽器であった。バッハが生まれる以前から、ときには数百年という単位で、それぞれの土地に深く根をおろし、土地の人々の生活と密着していた。その音楽の背景には聖書の言葉があり、その響きは神と人間を結びつけるための聖なる空間性をともなっていた。
オルガンの響きを聴くことは、私たちの心の中に教会をもたらすことでもある。
バッハの音楽家人生の大きな要素を占める教会カンタータの作品群から3曲を選んだのも、朝の礼拝に代わる、そうした心の教会をもたらす目的である。
敬虔さは、バッハの器楽曲にも内在する。
無伴奏チェロ組曲や平均律クラヴィーア曲集は人類の宝ともいふべき器楽曲だが、そこに認められるのは、数百年もの過去から私たちの心に向かって射してくる永遠性の光であり、それは私たちの身体を通り抜けて、未来へと伸びていく。
それを、神という名で呼び換えてもいいのかもしれない。
最後に選んだ「トッカータとフーガBWV540」は、有名な二短調とは異なる、ヘ長調の作品である。バッハの同種の曲の中でも最大規模を持つこのBWV540の大胆な展開について、のちにメンデルスゾーンは「まるで教会がいまにも崩れ落ちようとするかのようだ」と評したという。
「朝バッハ」をお楽しみいただくなかで、この壮麗な作品の偉大さが、時間をかけてゆっくりと皆さんの心へと染み透っていきますように。

林田直樹



OTTAVA selection volume 0
「朝バッハ～Bach in the Morning」



商品番号:OTVA-0000

メーカー希望小売価格 オープン価格

価格1,000円

(税込1,080円) 送料込

収録楽曲

1. バビロン川のほとりに BWV 653
[マイケル・アンガー (オルガン)]
2. 無伴奏チェロ組曲 第3番 ハ長調 BWV 1009 ～プレリュード
[マリア・クリーゲル(チェロ)]
3. 喜ばしい安息、好ましい魂の歓喜 BWV 170 ～アリア「喜ばしい安息、好ましい魂の歓喜」
[ヘルムート・ミュラー＝ブリュール指揮 ケルン室内管弦楽団 マリアンネ・ベアーテ・キーラント(メゾソプラノ)]
4. 組曲(パルティータ)ハ短調 BWV 997 - I. 前奏曲
[エリザベス・ファール(リュート・チェンバロ)]
5. 心も魂も乱れはて BWV 35 - コンチェルト
[ヘルムート・ミュラー＝ブリュール指揮]
6. フルート、ヴァイオリン、チェンバロのための協奏曲 イ短調 BWV 1044 ～第2楽章
[フェリックス・ライマン(フルート) インゲボルグ・チェラー(ヴァイオリン)
アンドレアス・シュベリング(チェンバロ) ヘルムート・ブリュール＝ミュラー(指揮) ケルン室内管弦楽団]
7. 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ハ長調 BWV 1005 ～アレグロ・アッサイ
[ルーシー・ファン・ダール(ヴァイオリン)]
8. もろびとよ歓呼して神を迎えよ BWV 51 ～コラール
[シーリ・カロリー・ゾーンヒル(ソプラノ) ヘルムート・ミュラー＝ブリュール(指揮) ケルン室内管弦楽団]
9. もろびとよ歓呼して神を迎えよ BWV 51 ～フィナーレ
[シーリ・カロリー・ゾーンヒル(ソプラノ) ヘルムート・ミュラー＝ブリュール(指揮) ケルン室内管弦楽団]
10. 平均律クラヴィーア曲集 第1巻 ～第21番 変ロ長調 BWV 866 前奏曲
[リュック・ボーセジュール(チェンバロ)]
11. 平均律クラヴィーア曲集 第1巻 ～第21番 変ロ長調 BWV 866 フーガ
[リュック・ボーセジュール(チェンバロ)]
12. トッカータとフーガ ヘ長調 BWV 540
[ヴォルフガング・リュプザム(オルガン)]

OTTAVA Selection volume2はゲレン大嶋選曲「午後のギター」

10月下旬リリース予定

